

## 佳作

### たくさんの優しさ

新潟県新発田市立第一中学校

3年 深井 綺星

私は、友達や先生、家族など、たくさんの人の優しさに触れることができました。中学1年生の3学期に、起立性調節障害という診断を受けました。起立性調節障害とは、自律神経の働きに悪化や乱れが出る病気です。自分の意思とは関係なく、朝に起きることが難しくなってしまうなどの症状が出てしまいます。個人差はありますが、自律神経の乱れが落ち着く夕方から夜にかけて体調が良くなっていきます。「こんな都合のいい病気なんてあるわけないでしょ。」「学校に行きたくないだけだろ。」と思う人もいるかもしれませんが、日中は立ちくらみや頭痛がひどく、学校に行きたいと思っても行くことができませんでした。つらかったです。何日か学校に行けない日が続くと、家族や友達に迷惑をかけてしまっていることが悔しく、同時に自分のことが情けなく感じました。

友達の優しさを改めて感じたのは、中学2年生のときのことです。私は、少し遅れて学校に行きました。ここ何日か学校に行けていなかったため、教室に入ることにすごく緊張し頬に冷や汗がたつてきました。教室に入ると、多くの人がこちらを見ているように感じ体に穴があきそうでした。自分の席に向かったときに友達が駆け寄ってきて、「おはよう！」と言ってくれました。私は少し驚きながら「おはよう。」と返しました。彼女にとっては何気ない挨拶だったかもしれませんが、ですが私にとっては、涙が出そうなほどうれしかったです。学校にしばらく行けていなかったから、友達には少し距離を置かれると思っていました。ですが、彼女はいつもどおりに接してくれました。だから私は、どんなときでも挨拶を徹底し、人によって態度を変えるなんてことは絶対にしないと心に誓いました。今でも、彼女の明るく爽やかな挨拶は心に染みわたっています。

休んでいて受けられていない定期テストがあるとき、担任の先生は放課後にテストを受けさせてくれました。先生は部活の顧問をしているため、放課後には部活に行っていました。ですが、私が放課後にテストを受ける日は部活に行きたい気持ちを押し殺して私の面倒を見てくれました。そのときのテストはあまり授業を受けられていないこともあり悲惨な結果でした。それを見かねた先生は、私が受けられていない授業の内容を放課後に時間をとって教えてくれました。そのおかげで、次のテストでは良い結果を残すことができ、教室の授業

にも追いつくことができました。先生には、感謝してもしきれません。

私が学校に行けていなかったから、家族にもたくさんの迷惑をかけてしまいました。私以上に、私の将来について考えてくれ、親身に寄り添ってくれたお母さん。いつも優しいけれど、間違っただ道に進みそうなどときには叱ってくれるお父さん。中学校の楽しさを改めて教えてくれたお兄ちゃん。私の体調を気にしながら支えてくれたおじいちゃん、おばあちゃん。みんなが、「あなたのスピードでいいんだよ。」と言ってくれたから、私は安心して一步一步着実に進むことができました。家族みんなのサポートのおかげで、今の私がいると思います。叱るときは叱ってくれ、楽しむときは盛大に笑わせてくれる家族が大好きです。いつも本当にありがとう。

友達や先生、家族の優しさが、私のエネルギーとなりました。私をどん底から救い出してくれた、かけがえのないものです。今挙げた方たちの他にも、たくさんの方々の優しさがあったから、いま毎日学校に行くことができていると思います。そして、将来について考えることが楽しくなりました。すてきな人たちが周りにたくさんいる私は幸せ者です。優しくしてくれた人たちに、少しでも恩返しをしたいと思います。今の私にできる恩返しは、一日一日を大切に、高校受験に向けて勉強することだと思います。私も優しさをもらった分、たくさんの人に優しさというエネルギーをお裾分けしていきたいです。